

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・体験を言葉で語ることと小説のありようとの関わりについて述べた評論からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりやや増加している。すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(19行)に比べ18行と1行減少した。
- ・本文の分量の増加、記述分量の微減はみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	小川 国夫 「体験と告白」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・ <b>やや増加</b> ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	評論	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 「それと今一つ」という表現から、隠すべき二つの要素を明確にして説明する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 傍線部直前の内容から、「つらさ」を知ることで「弱点」が識別されることを説明に組み込む。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部直後のアウグスティヌスの考え方を参考にして、傍線部の指摘を説明する工夫が求められる。
		問四	記述式	標準	傍線部に関わる理由説明の問題。(解答欄3行) 「信念」の内容と、次段落に述べられる「決定論」の内容を踏まえた説明が必要になる。
		問五	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄5行) 「言葉・言葉」という特徴のある表現に着眼し、傍線部に至る文脈に語られた、筆者による小説や体験談についての捉え方をよく読み取って説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体からの的確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- ・今年度も、漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・太宰治に傾倒していた作家、小山清による井伏鱒二訪問記の一節。リード文にはさらに、「井伏は太宰の師匠であった」という記述がある。随筆に分類される文章ではあるが、特に読解に苦勞するところはない。
- ・全体として、解答行数が昨年よりも2行増加。昨年はあった5行の問題がなくなった。
- ・設問はほぼ標準レベルだが、問四がまとめ方に少々苦勞するかもしれない。

<本文分析>

大問番号	二
出典 (作者)	小山 清 「井伏鱒二の生活と意見」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
二	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄4行)
		問二	記述式	標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄2行)
		問三	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄3行)
		問四	記述式	やや難	傍線部の内容説明問題。(解答欄4行)
		問五	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄4行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・昨年の文系二では対話文からの出題だったが、本年は随筆が出題されたことも踏まえ、評論や随筆を含め、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題

試験時間

120分

- ・平安時代の有名日記『和泉式部日記』からの出題であった。
- ・有名作品からの出題は4年ぶりであった。
- ・日記からの出題は6年ぶりであった。
- ・昨年と同様漢文・漢詩はなかった。
- ・昨年と同様本文に和歌があり、設問にも和歌の現代語訳や和歌を利用した説明問題が出題された。
- ・解答数は昨年と同じで五つであった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『和泉式部日記』 (和泉式部)
頻出度合 ・的中等	有名作品・頻出箇所
分量 前年比較	分量 <u>減少</u> ・やや減少・変化なし・やや増加・増加 約590字 (前年は約1100字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ <u>変化なし</u> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
目	日記	問一	記述式	標準	和歌の現代語訳問題。「語らはば」「ありやせむ」「言ふかひなく」「ざらなむ」の訳出がポイント。(解答欄2行)
		問二	記述式	標準	条件付きの説明問題。設問に引用された和歌を踏まえて主人公の心情を説明する。引き歌の「何事も言はれざりけり」「身の憂き」「ねのみ泣かれて」の内容を傍線部の主人公の心情に絡める所がポイント。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	条件付きの説明問題。「宮の来訪を聞いてから宮を西の妻戸のもとに招き入れるまでの」主人公の心の動きを説明する問題。該当箇所を丹念に読解し的確にまとめるところがポイント。(解答欄4行)
		問四	記述式	標準	条件付きの現代語訳問題。「適宜ことばを補いつつ」とある。 (3)「言へばにやあらむ」「なべての御さま」「なまめかし」の訳出がポイント。人物関係を踏まえた人物の補いがポイント。(解答欄2行) (4)「古めかしう」「奥まりたる身」「居ならはぬを」「いとはしたなき」の訳出がポイント。「奥まりたる身」「かかるところ」などの具体的な訳出がポイント(解答欄3行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・今年、有名出典からの出題であったし、以前も出題されているので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・近年、非有名出典からの出題もあるので、いろいろな時代・ジャンルに慣れておく必要がある。
- ・今回和歌の現代語訳、和歌を踏まえた心情説明が出題された。引用された和歌には序詞もあったので、修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・今年出題されなかったが、ここ数年は漢文・漢詩の訳や意味の設問が出題されているので、漢文を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳が三題出題されたが、人物の補い、指示内容の具体化などわかりやすい現代語訳が要求されている。本文全体の現代語訳ができるかどうかが京大文系古文の根本である。文脈を踏まえた現代語訳の練習がいちばんに望まれる。